

# 「顔の見える能登の食材」出荷推進用の DVDを制作しました

農業総合研究センター 中央普及支援センター



金沢市中央卸売市場でのセリの様子



デパートの売り場

能登には、山菜をはじめとする特色ある農産物が豊富にあります。これまで、一部が直売所に出荷されている以外は自家用として生産されていただけで、ほとんど販売されていませんでした。このため、平成21年度、県では、市町及びJA等と連携して「顔の見える能登の食材市場流通推進協議会」を設置し、少ないロットでも市場出荷できるような流通の仕組みをつくり、出荷者の発掘や栽培技術研修、出荷方法の指導等を行ってきました。

この結果、平成22年度、出荷戸数は234戸、売上げは約1,600万円まで増加し、農家の生産意欲も高まってきており、協議会では、本取組のスローガンである、出荷農家戸数500戸、売上げ1億円の達成に向けて、さらなる出荷者の発掘に取り組んでいます。

しかし、市場出荷をしたことのない生産者に対して、これまでのようにチラシなどの配布物を用いて流通の仕組みや出荷時の留意点を説明し、出荷を促すことは思うようにいきませんでした。このため、当センターでは、DVD等のメディアを効果的に利用してはどうかと協議会へ提案し、シナリオ作りやキャスティング、撮影等を支援しました。

DVDでは、「ふきのとう」について、畑から店頭まで追跡し、出荷調製や包装の仕方、伝票の書き方などを実演しながら、わかりやすく説明するよう配慮しました。また、実際の生産者やJAの職員がモデルとなることで親近感を持ってもらい、気軽に出荷できるような雰囲気映像となるよう工夫しました。

今後は、水稻の講習会や集落の座談会等の機会を利用して、このDVDを放映し一人でも多くの人に出荷してもらえるよう、啓発していきたいと思えます。

問い合わせ先：農業総合研究センター 中央普及支援センター  
(076-257-9150)